

令和5年度 第2回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和6年3月15日（金） 16:00～17:00
- 2 場 所 校長室
- 3 出席者 石田会長、藤本委員、山口委員、村田委員、古川委員、谷口委員
檜崎校長、末永教頭、橋岡事務長、新田首席、貞廣首席
その他教員 4名

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 令和5年度学校経営計画及び学校評価について
- (4) 令和6年度学校経営計画及び学校評価について
 - ※ 「学校教育自己診断アンケート考察」
 - ※ 「令和5年度卒業生進路状況」
- (5) 閉会

5 協議・意見交換

<令和5年度学校経営計画評価について>

校長：令和5年度経営計画にしたがって自己評価を行った。教育委員会の確認をとりながら進めている。今回の協議会でご意見をいただきたい。数値目標に対して自己評価の達成度合いを3段階で表している。

[質問なし]

[討議事項]

- (委員) 外部人材の活用が△になっているが、その理由は何か。
- (校長) 今年度、SSWの活用回数が予算の関係で足りなかったことによる。府立学校の中では、利活用率は高いと評価されている。
- (委員) 就職率が△となっているが、その理由は何か。
- (校長) 元々の目標が高めに設定されていたことが原因であると考えている。本校の過去の就職率と比較すると最も高い数値である。
- (委員) HWでは御校より承っている数値は若干高くなっている。集計のタイミングが影響していると思われる。卒業後、即就職することだけでなく、就労移行支援や職業訓練校など別のルートから就職を目指すことも、生徒様にとって選択肢としてあるべきだと思う。最近、企業の採用希望も様子が変わってきていて、支援学校の卒業生として相応しい企業を中心にご紹介をしている状況である。
- (委員) 就業生活支援センターでも、昨年相談を受けた卒業生の職場訪問を学校の教員とともに行っている。現在は支所ごとに若干対応が異なる部分もあるが、できるだけ同じ対応ができるように進めていきたい。

<令和6年度学校経営計画について>

校長：今年度の評価を踏まえ、達成できたことはさらなる向上を目指し、未達のものは再度目標

達成に向けた方策の見直しをしている。学校番号が変更になっているが、新たに支援学校が設立されることに伴う変更である。今後も複数校の新設が計画されている。

[質問なし]

[討議事項]

(委員) 共生推進教室設置校の見学は可能か。地域の中学校卒業生でなにわ高等支援への適性が高いと考えられる者が高等学校へ進学したが、卒業後の進路について不安が残っている。

(校長) 共生推進教室の見学は可能である。本校は進学フェア、オープンスクール、学校説明会のみ相談が可能であるが、共生推進教室設置校は随時教育相談を実施している。設置している高等学校に相談をしていただければと考える。

HWに卒業前に突然相談に来るケースは今年どの程度であったか。

(委員) 今年度は、昨年よりは減少している。専門学校などが就労移行支援事業所を紹介しているケースや職業訓練校への受験者が増加している。それ以外には単に決定の先延ばしにしているように思えるケースも多々ある。

<学校教育委自己診断アンケートについて>

(教員) コロナ禍が明けて、学校行事に対する好意的評価が高くなっている。一人1台端末の指導力が高まっていることも伴って、授業のわかりやすさの評価が非常に高くなっている。今後も研修等を重ねて、生徒が分かりやすい授業を展開していきたい。

<令和5年度卒業生進路状況について>

(教員) 先日は卒業式に参列いただきありがとうございました。7期生47名、共生2期生1名の48名が卒業したが、うち41名が企業就職している。未定生徒2名は家庭との連絡が取りづらく未決定であるが、引き続き追指導として関わっていく予定である。業種は、清掃、飲食、物流が多い。雇用形態として正社員の割合が過去一番高くなっている。

(委員) 物流関係がAI化で人員削減が進むことが予想されるが、学校ではその影響を感じているか。

(教員) 学校紹介で関わっている企業は現時点では採用意欲も旺盛であるが、今後の状況を注意深く見守っていく必要があると感じている。

(委員) 法定雇用率の算定方法が変更となる(精神障がい者で10時間未満の重度判定者を0.5名としてカウントできるようになることやトライアル雇用と施設外就労の関係など)ことが支援学校高等部の求人にもどのように影響していくか現在調査中である。

(校長) 情報提供ありがとうございます。校内でも引き続き、最新の雇用動向を注視しながら進路指導に取り組んでいきたい。

校長：閉会の挨拶